

平成18年度第1回仙台市廃棄物対策審議会 議事録

平成18年4月25日(火)
13:30~15:20
仙台市議会第二委員会室

I 次第

1. 開 会
2. 局長挨拶
3. 事務局職員紹介
4. 議事
 - (1) ごみ処理費用の負担のあり方について
 - (2) 仙台市産業廃棄物実態調査について(報告)
 - (3) その他
5. 閉 会

II 出席委員数 出席 16名, 欠席 4名 (海野委員, 崔委員, 末永委員, 山岡委員)
(委員総数20名。詳細は別紙のとおり)

III 議事

議長(会長)	議事に入る。議事録の署名を荒井委員にお願いする。審議会は公開が原則で、特に非公開とする理由がないので公開とする。 次第に沿って事務局から議事(1)について説明願う。
事務局(総務課長)	「ごみ処理費用の負担のあり方について」資料に基づき説明
議長(会長)	これから数回にわたってこの審議会でごみの有料化について審議するわけだが、今の説明を踏まえて、各委員から自由に意見を出していただきたい。次回以降は事務局からの案をもとに、審議会ではそれをまとめるような形で進めたいが、今回は自由に。
松坂委員	市民のごみの有料化に対する意識について、家庭ごみ或いは資源ごみを出す際に、どのくらい費用がかかっているのかあまり意識していないと思われる。実際に有料化となった場合の意識について、行政で把握している部分があれば説明願いたい。
事務局(局長)	現状の指定袋の制度では市の歳入が一切ないということをご存じでない方も多く、またアンケート調査も今のところ実施していないが、市民への説明は重要と考えている。意識については、今日欠席の海野委員が市民へのアンケート調査を実施しており、次回にでも委員の意向を踏まえて、可能であれば資料として配布したいが、その中では、有料化すべきだ、また積極的でなくともやむなし、という比率が全体の42%であった。
議長(会長)	次回以降海野委員から詳しく説明いただければ。
鈴木(昇)委員	有料化することで不法投棄が増える可能性があるが、その対策を想定しているか。
事務局(局長)	市が粗大ごみ収集の有料化に移行したときもその心配はあったが、家電4品目と違って料金水準が低いということもあり、それほど増えてはいない。家庭ごみが有料化された場合の不法投棄対策というのは、様々な対応を考えていく必要があり、これからの検討課題である。
議長(会長)	不法投棄については家電製品のように負担が数千円のものであれば不安があるかも

	<p>しれないが、有料化の金額はそれほどでもない。行政の指導あるいは学校教育など様々な点から考慮すべき。ただそれは今後のことであって、有料化が全国的に進んでいる中で仙台市として具体的にどうするか、価格により異なってくる可能性があるので、継続して審議する。</p>
鈴木(昇)委員	<p>そのほかの問題として、ごみ集積場の管理に対するモラルの問題がどうなるか、簡単に言えば人のごみ袋に自分のごみを入れる事例が出るのでは。不法投棄として扱うかどうかは別として、いわゆるモラルの問題でどうなるか想定する必要がある。</p>
議長（会長）	<p>初期段階では自分以外のところに捨てる事例もあると思う。私の意見としてだが、順調に推移するまではフレキシブルな考え方で収集する必要があるのではないかと。実施段階でまた課題が出てくると思うが、先の細かい点まで考えてしまうと有料化についての討議が出来なくなるので、今は色々な課題があることを踏まえていただければ。</p>
安孫子委員	<p>仙台市が集中的な行財政改革を進めている中、使用料や負担の適正化という観点から、また国においても発生抑制あるいは住民意識の改革について提言しており、有料化はやむなし、という立場である。そのうえでの質問だが、焼却や処理においては他市町村と連携している部分があり、仙台市だけで有料化を進めるとするのはどうか。近隣の自治体も同様のスケジュールで進めていくべきと思うので、仙台都市圏として同じ意識で有料化に向けていけないものか。</p> <p>また、現在有料で収集している事業ごみ及び粗大ごみの場合、処理費用の一定割合を排出者が負担しているが、家庭ごみ及び資源ごみの場合、費用の何%くらいを負担する事が望ましいと考えているのか。</p>
事務局（局長）	<p>本市は費用負担について検討することを表明しており、近隣自治体からの問い合わせは多いが、その中には今後検討を始めるところもあるかもしれない。</p> <p>また、負担割合は今後の検討課題で、審議会での意見を踏まえて考えていく。現状ではトンあたりの処理コストでは家庭ごみが一番安く、資源ごみが高い傾向にある。一袋に入る重さの違いもあり単純な比較は出来ないが、リサイクルを推進するためには資源ごみを高くするわけにはいかない。生活ごみのトータルでの負担率という視点も必要だが、経済的インセンティブを考えた手数料体系を示す必要がある。</p> <p>最初に負担率ありきなのか、あるいは大袋一枚あたりでどの程度までが負担いただくうえで適切なのか、両面の視点から考えていく。</p>
安孫子委員	<p>仙台市のみが単独で移行するのではなく、他の近接する自治体も一緒に、有料化なら有料化の方向に仙台都市圏としてやっていこうというのがソフトランディングではないかと思うので、近隣の市町村と情報交換していくことを期待する。</p> <p>また、現在ごみ袋は一枚 6 円 50 銭から 7 円くらいになる計算で、純粋に袋の制作費なのだろうが、既に実施している他の政令市で見ると、一般的な家庭ごみ 45 リットルの袋で 1 枚 50 円くらいで、30 枚で買った場合で計算すると、今まで 198 円くらいだったものが 1,500 円くらいになるかと思う。これはかなりの負担と感じられるのではないかと。家庭ごみの中で量の多い生ごみの処理機を利用したり、紙ごみ回収のためのステーションを積極的に設けるなど、排出抑制に向けた施策が必要である。</p> <p>有料化のひとつの目的は排出抑制をしていくということであるし、リサイクルに対する住民の意識を啓発するという目的もあるので、有料化の一方で排出抑制のための基盤整備を行政の責任で進めていくべきと思うがどうか。</p>
事務局（局長）	<p>そのとおりと考える。有料化をひとつの契機として仙台市のごみ減量・リサイクル施策をさらに充実させるべきであるし、アイデアの提言もいただいきたい。費用対効果も踏まえ、新たな施策展開も考えていく。</p>

安孫子委員	<p>有料化の流れの中で、排出抑制に向けての周辺環境の基盤整備も進める話が出るかどうかは市民の理解を得るうえで大きいと考える。</p>
議長（会長）	<p>今の意見は、例えば有料化だけでなくそれに関連して排出抑制のために市民がどのような形で参加できるかという話で、私も賛成である。新聞紙や段ボールの収集のように、行政が対策を立てれば、多くの面で市民も協力できる。有料化だけでなく、それに付随した施策も必要だという貴重な意見。</p>
深野委員	<p>紙ごみについて、資源になるものとならないものとの区別が明確にならないと効果がないのではないかと。毎日見ていると、小さなオフィスからの紙ごみは全部捨てられているのが現状で、収集している側からの指導が全くないようだ。行政が一生懸命旗を振ったとしても、収集の現場との感覚が違うために、実績が上がる手段を採っていないのではないかと。これは資源なので捨てないようにという内容で、1～2回でも市の名前が入ったシールでも貼ってあれば、廃棄しないかもしれない。収集業者への指導の徹底がキーワードになるので、今後も強化していく必要がある。</p> <p>また紙ごみの場合、現実に子供会の数が減少していることからそれに代わる組織の再構築が必要で、拡大あるいは組織作りにも力を入れていかないと、実績は上がらないのではないかと。</p>
事務局（局長）	<p>事業系のごみについては紙類の搬入を制約しており、今は許可業者あるいは資源回収業者が分別して収集しており、そのルートが定着しつつある。平成17年度も一定の効果が出ているが、事業系ごみの紙類の分別については今後更に効果が上がるものと想定している。また家庭ごみの分別については、生ごみと混ぜて捨てられたものを置いてくると、今度は置いてきたことへの苦情もあるため、どのように徹底するか難しい部分があるものの、様々な対策を考えて徹底していきたい。また、委員の指摘どおり子供会を中心とした収集は転換期に来ている地区も多くあり、町内会での対応も依頼しているところである。そのほかモデル収集事業も試験的に実施しており、その実績も併せ、かつ地元の要望も踏まえつつ、今後どのように拡充していくか考えたい。</p>
庄司委員	<p>処理費用が伸びている中、特に生活ごみはその半分以上を占めている現状で、市民の意識を啓発する意味での有料化という事は、私は必要なことであると思うし、自覚を促す意味では負担は安くてもいいと思う。そこはこれからの審議において議論されるのであろうし、有料化に進む事は非常に大事であると考えている。</p>
議長（会長）	<p>各委員の意見を伺っていると反対がないようで、概ね有料化というのは今の時代の流れだろうという事かと思う。ただ先程から出てきたのは費用がどのくらいになるかという事と、もう一つは実際に有料化をした時の問題点が多くあり、それをクリアしていくための議論を併せて行いたいという意見が出てきているようだ。</p>
平賀委員	<p>ルールどおりにごみが捨てられない場合、そのまま置いて行ってもいいと思う。それぐらいの、懲罰という程のものではなくとも、ある程度の厳しさがあってもよい。市民の協力とルールを守る意識が必要で、それから収集業者との提携を上手く行う事ができるなら、有料化には私も賛成の立場。ごみの処理には79億1,400万円という費用がかかっていて、たばこ税が74億であることを考えてもかなり高額である。適切な処分のために市民全体で協力する必要があると痛感している。</p>
紅邑委員	<p>有料化について、これだけ処理費用がかかる現状を踏まえれば必要と考えるが、その過程で負担を伴う事で反発されるのではという懸念がある。ごみの減量とセットにした形で市民の理解を得る必要があるし、広報を通じて周知する機会が更に必要ではないか。そういった意味では、町内会あるいはごみの減量・リサイクルの推進に取り組んで</p>

	<p>いる人たちとの連携が必要と思うし、以前ワケル君というキャラクターを活用して分別の徹底を働きかけた時と同じような形で、分かり易く市民に伝えていく工夫が、ソフトランディングという意味で必要ではないか。</p> <p>それから、町内会との連携も大事だが、やはり学校あるいは企業にも生活者は当然いるので、市の職員を見本として目に見える形で周知を徹底する工夫も、有料化を進める上で必要と思う。</p>
議長（会長）	<p>今日は各委員から自由に発言して、次回以降にその内容を踏まえてまとめたものを行政側から出していただくことにしたい。</p>
橘委員	<p>市民の意識の中に、仙台市を美しくするために私たちも一役買わなければいけないという気持ちが根付いてきているなということを感じている。</p> <p>先日杜の都の親善大使の審査員を務めた時に、候補者の中でワケル君はとても自慢だという事を言っていた人がいた。それを聞いて若い人たちにもそういう気持ちが芽生えている事がうれしかったと同時に、そういう親善大使の方たちにもPRしていただけたらと思った。</p>
議長（会長）	<p>有料化で一枚数円の袋で済んでいたところが、今度は他都市の例で考えると50円くらいになるわけで、そうなる今と違った方法で、ごみを上手に減らすにはどうすればいいかという事も市民に対してPRしていく必要がある。</p>
矢吹委員	<p>昨年の審議会において、有料化を視野に入れ様々な角度から検討する必要があると提言したところであり、私自身もごみを減らそうという活動をずっとしてきたので、有料化は当然の事と考えている。</p> <p>ただ、42%の市民がやむを得ないという調査結果であったそうだが、審議会の委員は意識が高いものの、一般的には積極的に賛成という人はそれほど多くないのではないか。私自身はやむなしと考えるが、唐突に有料化という話が出たら反発があるだろう。市民の協力は得られると思うが、現状でのごみの排出量とその処理に多額の費用が必要となっているという事実を、きっとほとんどの人は知らないだろうし、情報として知ってこそ初めて協力できる場所なので、この一年間、我々が議論するとともに、市民に対してきちんと伝えていくという努力を忘れてはいけない。</p> <p>私は事業系ごみの負担はもう少し高くあってほしいと思う。事業所の中では、言葉は悪いが分別に非常に頑張っているところもあれば、その一方で全く頑張っていない所もある。分別を促すという意味でさらなる取り組みを求めてもいいのではないか。</p> <p>それから、有料化に伴う収入の何割かは分からないが、環境のために使うような仕組みをぜひその中に設けてほしい。頑張っている人を応援する仕組みがあってこそ環境先進都市と言えるのではないか。</p>
議長（会長）	<p>資料1においてパブリックコメントは10月頃の予定という事であったが、市民への周知のためには、市政だよりである程度PRしながら進めていく事も必要になるだろう。貴重な意見として行政にも考えていただきたい。</p> <p>収入の使途に関しては、今後の審議において場合によっては我々が示せば、使い途が見えている方が一般市民からすれば協力しやすい、という意見だと思う。</p>
事務局（局長）	<p>事業ごみの料金について説明すると、通常一袋185円くらいで許可業者が収集している。許可業者はそれで収集運搬に要する経費を賄い、仙台市の焼却工場に持ってきた時点で市はトン当たり一万円を徴収する、というシステムになっている。処理費用の全額には届かないが、それくらいの負担はある。</p> <p>また、これからの市民PRについては、我々も、今後一番大切な事と認識している。委員の皆さんから提言をいただきながらきちんとやっていきたい。</p>

	<p>収入をどう使うかであるが、手数料は基本的に一般財源となるけれども、検討課題だと思っている。</p>
平賀委員	<p>ワケル君を使ってペットボトルの分別キャンペーンを行った際、市民から本当に素晴らしい協力を得られたので、PRを徹底すれば納得していただけるものと思う。</p>
荒井委員	<p>MELON の会員はごみの減量化にも取組んでおり、有料化には心から喜んで賛成というものではないが、やむを得ないだろうという気持ちでいる。</p> <p>ただ、減量化については、どのごみがリサイクルできるのか、というような事すらもまだまだ一般市民には周知徹底が不十分と感じているので、有料となるにしても、さらに細かいレベルでの指導、取り組みというものが必要になってくると考えられる。</p> <p>それから、価格については、他の政令市だと 50 円くらいというような話があったが、まず価格ありきではなく、それが本当に適正であるか見直し、またそうなるには明確な理由付け、あるいは説明責任があるので、そのためのPRも必要。</p> <p>また、町内会に加入していないとごみを出してはいけないという理由でトラブルが起きた事例もある。そういうコミュニティの構築とか、コミュニティ単位でごみを出すという教育が、有料化となった場合にトラブルを防ぐ意味でも、とても大切になると思う。また、仙台は有料でも隣の市町村は無料だからとそちらに持っていくような、モラルの十分でない人もいないとは限らないので、周辺の市町村との連携も考えていく方向にあってはいかかかと思う。</p>
鈴木(泰)委員	<p>先程矢吹委員から、市民に有料化を諮る前にもう一回事業系ごみの値上げを前提にしてもいいのではという意見があったが、中心部の商店街には他の地区に比べ網をかけやすい一面があり、そのためにこれまでも収集の料金が何年かに一回ずつ上がっている状態である。そのような中、郊外の大型店に市民が流出し、我々は東北一円からお客さまを集め、それに伴い持ち込まれるごみの処理費用を負担している。現状で更に値上げするのは強引であると思う。その費用が上がる度に知恵を絞り、可能なものは極力リサイクルするという事で圧縮している努力もあるので、有料化が排出抑制につながる事を市民に理解していただきたい。我々も法人市民税・固定資産税等で十分に市民に還元している。事業系ごみの排出者に今以上に負担を求めることについては、私たちも市民であり、多額の消費税も納めているし、そこを理解していただきたい。</p>
議長（会長）	<p>今議論をすべきはまず家庭からの一般ごみについてであって、今後事業系も対象になるかもしれないが、それはおそらく一般ごみの費用負担の枠組みが決まってから、全体としてのバランスはどうかという時に出て来るものだろう。</p> <p>一般ごみの価格は先程他都市は 50 円くらいという事であったが、仙台市でももっと高額に設定するとなれば、そのような問題になるかもしれない。そのところはもう少し後で議論していただきたいと思う。</p>
松坂委員	<p>事業系ごみの話があったが、昨年紙ごみの焼却場への搬入を禁止した結果、資料にあるように排出量が大幅減ったとの事。今回、生活系のごみで有料化を進めた場合、これまでは新聞・チラシ・雑紙・雑誌などが混ざっていたようなので、ある程度高い価格に設定すれば、可能なものはリサイクルに回そうという意識が働くと思う。そうした時に、そのリサイクルに回すものを誰が取りに来てくれるのか、あるいはどこに出せばいいのかという受け皿の部分が一緒に整理されなければならない。集団回収、町内回収、或いは昨年からのステーション回収がある中で家庭ごみ等の集積所は一万数千箇所ある一方、集団回収は千百くらいの団体で、いかにも少なすぎる。有料化に合わせて、リサイクル業界とも綿密に話し合っ、受け皿作りというのをやっていただけないかと思う。</p> <p>それから、折角ワケル君とそのファミリーまで出来て、分別が浸透しつつある中、家庭の台所では確かにきちんと分別しているけれども、どうしても事情があって混合収集</p>

	<p>になってしまうと、その折角分けたごみが一緒に回収されてしまう。また学校等でも缶・びんの分別とか、ペットボトルはキャップを外してラベルを取ってと色々な指導をしていますが、実際に集積所に出す時には缶もびんも一緒になってしまうというところが問題であり、常に考えさせられる。</p>
議長（会長）	<p>実際にワケル君やセツコさんというキャラクターがあるが、それらを活用した成果がどう出てきて、本当に上手くいっているのか。今度有料化になるとすれば、そのような点を向上させていかなければいけない。行政としても市民の人たちが協力できるような体制を整えてほしい。これはこれからの課題である。</p>
豊澤委員	<p>今日の話聞いて、もっと我々も勉強して学校で教えてかなければならないと感じた。我々教員がこの問題について深く理解し、それを子どもたちに考えさせるような事をしたと思った。今後の授業に活かしていきたい。</p>
深野委員	<p>鈴木(泰)委員の話はよく理解したが、私が現場をずっと見ている限りで、生活ごみの中に事業所からのごみが何%入っているのかという事が気になる。中心部から事務所を引っ越したところ、事業ごみと家庭ごみの区別が無いのが現状。中心部の商店街に住む人では家庭から出たごみもお金を払って業務用と一緒に出しているが、そこから少し離れたら、事業所が全部家庭ごみとして排出している実態を何とかしなければと感じた。</p>
事務局（廃棄物事業部長）	<p>本市もごみの減量・リサイクルを進め、あるいは適正処理を推進するという観点で、事業系の紙ごみの焼却工場への搬入を禁止するという措置と併せ、大手の事業所には既に条例で立ち入り指導を行っている。さらに中小事業所を対象とした訪問指導を昨年度から開始しており、4,700件ほどの実績がある。今年度も5,000件を目標に訪問指導を行うことを考えているので、適正処理の指導についても周知徹底していく。</p>
議長（会長）	<p>今回は各委員から様々な意見が出され、まとめるというにはたくさんの課題があるようだ。次回以降は今回の議論を踏まえて事務局が骨子を作成し、それに基づいて審議を継続していきたい。</p> <p>二番目の議題について、事務局から報告願う。</p>
事務局（廃棄物指導課長）	<p>議事（2）「仙台市産業廃棄物実態調査について」資料に基づき報告</p>
議長（会長）	<p>調査結果は全国的な平均と大体似ているという感じであるが、この中で何か問題点はあるか。例えば不法投棄の実態調査のような。</p>
事務局（廃棄物指導課長）	<p>そういったものは特にはない。</p>
議長（会長）	<p>最近PCBに関わる問題が出てきているが、それは報告書の中に載っているのか。</p>
事務局（廃棄物指導課長）	<p>この中には載っていないが、現在北海道に処理工場を作っており、それが完成し次第、東北地方と北海道に保管してあるPCBが処理される予定である。</p>
議長（会長）	<p>処理計画はこれからという事で了解した。ほかになにか質問はあるか。</p>
松坂委員	<p>報告書に関する質問ではないが、大規模地震等震災が発生した場合、仙台市内の焼却場も、今泉・葛岡・松森の各施設だけで対応できるのか。</p>

事務局（局長）	<p>それらは基本的に一般廃棄物の処理施設なので、産業廃棄物を処理するには制約がある。震災によって一般家屋が倒壊した場合のごみについては一般廃棄物という位置づけが可能と思われる。ただ、大量に発生した場合、相当の仮置き期間をおかないと処理は困難と考える。</p>
議長（会長）	<p>災害対策はケースバイケースであり、絶対という原則は無いであろうが、単純に埋め立てるだけは違法になりかねず、どう対応するかは今後の課題。 それでは三番目の議事、「その他」について事務局から説明願う。</p>
事務局（総務課長）	<p>次回の審議会は6月の中旬か下旬を予定している。 また、庁舎の耐震補強工事の関係で、環境局は5月から小田急ビルに移転する。</p>
議長（会長）	<p>以上であらかじめ示された議事は終了したが、ほかに何か。</p>
安孫子委員	<p>今回のテーマについては市民への伝わり方について特段の配慮が必要と考える。併せて検討の中で、現在の処理費用がどれだけかかっているかということ、そしてその処理費用の一部を負担した場合、それはそのまま処理費用の補填ということではなく、収集業者への指導を強化するための費用のような、環境行政に資するコストの使い方も含めて審議会で議論して行くべきと考える。</p>
議長（会長）	<p>次回は今日出された意見がある程度集約していく必要がある。例えば有料化の具体的な手法、そのほか不法投棄の対応策、近隣の市町村の問題等があるので、そういった課題を一緒に出し、それぞれについて意見を伺いながらまとめたいと考える。市民へのPRをどのように行うかは非常に重要であるから、費用の点も踏まえ、さらに掘り下げた審議を進める。</p>
事務局（局長）	<p>制度の骨格的な部分は出来るだけ早く固めていくということが必要なので、まず次回、その点についての案を示したい。</p>
議長（会長）	<p>（閉会宣言）</p>
	<p>議事録署名人</p>
	<p> 仙台市廃棄物対策審議会 会長</p>
	<p> 仙台市廃棄物対策審議会 委員</p>